

令和6年度学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 都立国分寺高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）

(2) 事務局の構成 総務主任（事務局長）1名、総務部員1名 経営企画室長1名 計3名

(3) 内部委員の構成

校長・副校長・経営企画室長・教務部主任・生活指導部主任・進路指導部主任・
総務部主任・保健環境部主任・探究部主任 計9名

(4) 協議委員の構成

国分寺市教育委員会教育部社会教育課長・国分寺消防署戸倉出張所長・国分寺市立第五中
学校長・国分寺市立第六小学校長・小平市立小平第四中学校長・国分寺市新町三丁目自治
会相談役・東京都立大学教授・本校元PTA会長・PTA会長 計9名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会

第1回

- ・日時：令和6年6月1日(土)開催
- ・資料内容：校長挨拶、学校経営計画、学校経営報告、分掌からの報告等

第2回

- ・日時：令和6年9月30日(月)開催
- ・資料内容：各分掌からの報告等、学校評価アンケートの内容検討

第3回

- ・日時：令和7年2月1日(土)開催
- ・資料内容：分掌からの報告等

(2) 評価委員会

第1回 令和6年6月1日(土)／開催

- ・資料内容：委員長の選出、前年度学校評価報告書

第2回 令和6年9月30日(月)／開催

- ・資料内容：今年度の学校評価の観点・項目・内容・実施対象の検討

第3回 令和7年2月1日(土)／開催

- ・資料内容：アンケート集計結果分析、学校評価報告、来年度への提言

3 学校運営連絡協議会による学校評価

(1) 学校評価の観点（4点満点）

- ・生徒の学校生活に対する意欲及び学校教育活動に対する満足度
- ・教員・保護者の学校教育活動に対する理解・満足度
- ・地域住民（近隣小中学校児童と生徒の保護者・近隣住民）の本校及び本校生徒に対する理解・評価

(2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

- | | | |
|---------------------------|---------|---------|
| ・10月 本校生徒 | 対象：945名 | 回収率：76% |
| ・11月 本校保護者全員 | 対象：945名 | 回収率：84% |
| ・11月 教職員 | 対象：65名 | 回収率：85% |
| ・11月 近隣小中学校児童と生徒の保護者・近隣住民 | 対象：200名 | 回収率：21% |

(3) 主な評価項目

- ・生徒に対して…教育目標、進路指導、部活動・学校行事、施設設備、交通マナー、いじめ・体罰について
- ・保護者・教員に対して…学校運営、学習活動、進路、学校生活、いじめ・体罰、ライフ・ワーク・バランスの推進について
- ・地域住民に対して…進学指導、部活動・学校行事への参加、防災訓練、奉仕活動、交通安全指導について

(4) 評価結果の概要

- ①生徒の平均値がきわめて高い（3.5 以上）項目は、「2 学校生活は楽しく充実」、「4 学校は伝統・校風を継承」、「6 生活指導の順守」、「12 部活動に積極的」、「13 学校行事に積極的」、「14 クラスの活動に積極的」、「19 交通ルール・交通マナーの遵守」の 7 項目であった。（昨年度 6 項目）。なお本校の懸案事項である、項目 19 に対しては、生徒の自己意識としては、努力を継続していると考えていることがうかがえる。一方、評価値が 2.9 以下のものは「16 生徒の健康管理への配慮 (2.9)」「17 校舎の衛生的な管理 (2.7)」「18 教室・施設の良い整備 (2.8)」である。
- ②保護者による評価について、昨年度と比較し数値が 0.1 以上低下した項目は、「5 学校の生活指導（学校生活のマナー、学校の決まり等）」について、自分の子どもは守っている」、「15 学校では、生徒の健康や安全に関する指導が適切に行われている」、「18 学校は、交通安全教育に積極的に取り組んでいる」、「19 学校の教室・特別教室・体育施設・校地などはよく整備されている」である。生徒の自己意識は生活指導を守っていると高い評価が維持されていたが、保護者のほうは値が低下している。
- ③保護者の評価が教員より低い項目は、昨年度は 5 項目であったが、今年度は 7 項目であった。保護者と教員の意識差が拡大する傾向も見られており、注視する必要がある。特に、「7 自分の子どもは、授業内容でわからないことがあれば、いつでも学校で質問したり個別に教えてもらっている」は、保護者の評価が教員の評価を 0.6 ポイント以上下回っており、検討の必要がある。

(5) 評価結果の考察

- ①生徒の評価については、昨年度から回答全体はほとんど変化はなかったが、「19 交通マナーへの意識」、「16 生徒の健康管理」、「17 校舎は衛生的に管理」の項目の低下が見られた。コロナ禍前の 2019 年度と比較すると、上昇したのは「4 学校は、伝統・校風を大切にし、引き継いでいる」、「13～15 学校行事、クラスの活動、生徒会活動に積極的に関わっている」、「18 施設・設備・校地の整備」、「20 体罰や暴言、いじめをなくす取り組み」である一方、下落したのは「11 進路相談・個人面談などの機会」であった。昨年に引き続き 3.5 の高い平均得点が得られたものは、学校適応を端的に表す「2 学校生活は楽しく、充実している」以外に「4 伝統・校風を大切にし、引き継いでいる」、「6 生活指導を守るようにしている」、「12、13 部活動、学校行事に積極的に取り組んでいる」、「19 登下校時、交通ルール・交通マナーを守っている」で、いずれも得点は高いまま推移しており、これらは、上限に到達していると思われる。これらの結果から、生徒たちの学校生活は全体的に充実している。コロナ禍前と比べて充実度はより高く、学校の姿勢が功を奏している一方、個別相談のニーズが高まっていると考えられる。この他自由記述からは、服装や施設に関する要望が複数挙がっており、中学校での主権者教育が生徒に作用しているように思われる。進学校としての対応が求められる。
- ②学年進行に伴う生徒の学校評価の変化（学年ごとの結果から）
3 年生：2 年次に多くの項目で見られた低下は概ね上昇した。ただ「3 困ったときに学校が対応してくれる」、「5 学校は生徒の話を聞く機会を設ける工夫をしている」、「10、11 進路情報、進路相談の機会」は年次を追うごとに低下している。前年の卒業生と比べても、「12 部活への参加」は高い一方、その他は低下した項目が多い。
1、2 年生：2 年生は 1 年次より意識の低下がみられるのは例年どおりであるが、前年の 2 年生と比べると「7 勉強にしっかり取り組んでいる」が高かった。一方、1、2 年生共通して、前年同学年よりも「17 校舎の衛生的な管理」の回答が低かった。また 1 年生は、前年同学生と比較して「8 いつでも学校で質問したり個別に教えてもらえる」が低かった。
特に 3 年生は、必要な情報を自身で探し求めるよりも、学校に求める生徒が多い傾向が読み取れる。面談や相談の機会の充実を工夫することにより、学校を信頼する気持ちの低下や生活の崩れ防止につながると考えられる。また校舎の管理は、生徒主体で行うような仕組みを検討するなど工夫したい。
- ③保護者と教員の学校評価について
保護者の評価：3 年間安定しており、項目 1～5 の全般、8～10 の進路関連、12・13 の部活や行事を高く評価している。
教員の評価：ほぼ安定しているが、昨年と比べ「8 進路情報の提供」、「11 保護者との連携」が増加し、改善を意識していることがうかがえる。
保護者と教員との差異：昨年度と同様、「7 授業内容でわからないことがあれば、いつでも学校で質問したり個別に教えてもらっている」は保護者のほうが評価が低く、「5 学校の生活指導を

子どもは守っている」、「14 教職員のライフ・ワーク・バランス」は保護者のほうが評価が高かった。いずれの項目も、保護者からは認識されにくい項目である。以上の結果からも、教員の努力が保護者には理解されにくい傾向が読み取れる。これを解消するためには学校から保護者に届きやすい方法（SNS やホームページ）を使った情報発信が効果的であると考えられ、今後工夫していく必要がある。記述部分からは、学校を評価する意見もある一方、安全や健康を心配した、上履き・服装・ヘルメット・行事への対応を求める意見が多い。上履きや服装に関しては、学校の運用で対応できると思われるため、生徒の安全面や自主性を重要視し、早急に対応を検討する予定である。

④地域の評価について

2023 年度に改訂したアンケートを QR コードを使ったオンライン回答も併用して実施した。回答数は減少したものの、内容には大きな変化はなく、「わからない」率もほぼ同じであった。多くの記述意見を得ることができたことは、本アンケートがコロナ禍が明けて地域とのコミュニケーションのツールの一つとなり得ると考えられる。

交通マナーは改善しているという意見もあったが、まだ改善すべき点が多い。記述部分で記載されたヒントを活用しながら、課題改善に取り組みたい。これらの課題解決においては、教員が生徒を直接指導するのではなく、生徒が自ら意識して改善しようと主体的に取り組むように教員が仕向けることである。そのためには、生徒会活動や生徒の探究学習、部活でテーマとして採り上げるように指導するよう進めていきたい。地域にとって魅力的な高校であり続けるためにも、学校の取組を HP などを通じて地域へ提供することにより、地域への理解や魅力発信につなげていきたい。

4 学校運営連絡協議会の成果（学校評価を含む）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

活発な議論の中、協議委員の方々から貴重な御意見をいただき、今後の本校の教育活動の充実に生かしたことは大きな成果であった。特に、本校の公開講座や、探究活動等については、一定の評価を得ていることも確認できた。今後もより地域へ開かれた学校を目指し、本アンケートの充実を図りたい。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

これまでと同様に、生徒の自転車マナーの向上については厳しい御指摘をいただいた。生徒や教員は努力を継続しているものの、残念ながらそれが外部には伝わっていないのが現状である。また、地域の方々は温かく本校の教育活動を見守って下さっているが、改善が必要な課題にたいする厳しい御指摘もいただいている。本校としては、継続して地域に対する説明責任を果たすべく、教育活動の「可視化」に向けた努力を継続することが必要である。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

（1）学校運営

「進学指導特別推進校」として、家庭学習習慣の確立および進学実績の向上に向け、入学時学習オリエンテーション週間の実施、模試分析会及び大学出願指導研究会を実施した。

（2）学習活動

土曜授業の実施、長期休業期間の始期変更により、年間の授業時間を十分に確保した。冬期集中セミナー、長期休業中の補習・補講を実施した。

（3）生活指導

交通安全対策として、危険ポイントに安全指導員を配置するほか、時期を決めて全教員が校外での安全指導を行った。外部機関と連携した交通安全教室やセーフティー教室を実施した。

（4）進路指導

進路指導計画に従い、実力テスト・学力診断テスト・実力判定テストなどを実施し、その分析会を実施するとともに、定期的な学年別の進路通信発行等により、受験に対する早めの動機付けと迅速な情報提供を行った。

きめ細やかな個別指導実施に向け、大学出願指導研究会を年 2 回実施した。

保護者との連絡を密にし、三者面談などを通じて情報の提供と個別の進路指導をより充実させた。

（5）保健指導

スクールカウンセラーが 2 名体制になり、新入生全員面談、生徒・保護者・教職員対象のカウンセリング、精神科医による研修会、生徒対象の保健学習会を実施するなど、健康教育の推進・保健管理の徹底をさらに充実させた。

「ゴミの減量・分別・リサイクル」の標語のもと、紙のリサイクル運動に取り組んだ。

(6)総務

消防署と共同で防災訓練を実施し、地域の方にも参加していただいた。

進学指導特別推進校としての実績を上げるため、教員の校内研修を充実させた。

学校説明会を複数回開くだけでなく、Web上の情報発信を質量ともに改善した。

ホームページを通じて本校の教育活動を紹介した。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思 わない	分から ない	無回答
2	3					4

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

・参加実績 なし

8 その他

・特記事項なし